認知症疾患医療センター併設医療機関における作業療法実態調査

この調査は、令和3年3月29日に認知症疾患医療センター運営事業の実施要綱が改正されたことを受け、認知症疾患医療センターを有する医療機関の作業療法士を対象に、認知症疾患医療センターにおける作業療法士の配置状況、取組実態についての現状と課題を把握し、支援策を検討することを目的としています。調査から得られた結果については、厚生労働省や日本老年精神医学会等の関係機関に報告を予定しています。

回答について

- ・特に記載がない項目に関しては、回答時点の状況でお答えください。
- ・回答内容がデータではお手元に残りませんので、pdf 版の調査票を記録用としてご利用ください。
- ・Web 版の構築都合上、pdf 版と画面構成などが一部異なる箇所がありますがご了承ください。
- ・調査期間中は回答の修正が可能です。修正の際は再度、同じ PC の同じブラウザでアクセスしてください。(Cookie が有効の場合に限ります)

調査項目

- I. 実施要綱改正の認知度について
- Ⅱ. 認知症疾患医療センターにおける作業療法士の関与状況について
 - 1. 認知症疾患医療センターの類型
 - 2. 認知症疾患医療センターにおける配置職員
 - 3. 認知症疾患医療センターにおける「専門医療機能」として診療報酬への作業療法士の関与状況
 - 4. 認知症疾患医療センターにおける業務にかかる作業療法士の関与状況
 - 5. 作業療法士の認知症疾患医療センターへの関与の具体的内容
 - 6. 「在宅訪問支援機能」の実態把握
- Ⅲ. 作業療法士の研修会への参加状況
- Ⅳ. 作業療法士が実施している「地域への取り組み」
- V. 認知症疾患医療センター業務への作業療法士の関与体制についての意見
- VI. 認知症疾患医療センターにおける認知症のリハビリテーションについての意見・要望
- Ⅷ. 取組事例の提供可否

以下の設問に回答をお願いいたします。

回答者について

施設名		
回答者(作業療法士)氏名	経験年数	
メールアドレス		

I. 実施要綱の改正について

令和3年3月29日に認知症疾患医療センター運営事業の実施要綱が改正され、全てのセンターの機能として「診断後支援等機能」が位置付けられ、①診断後の認知症の人や家族に対する相談支援、②当事者によるピア活動や交流会の開催、のいずれか又は両方を実施することが明記されたことを知っていますか。

□ 知っている

□ 知らない

ーロメモ

診断後支援等機能とは、認知症の人や家族が、診断後であっても、今後の生活や認知症に対する不安の軽減が図られるとともに円滑な日常生活を過ごせるよう、かかりつけ医等の医療機関の他、介護支援専門員等地域の介護に関する関係機関、地域包括支援センター等との連携の推進を図るため、診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援、当事者等によるピア活動や交流会を行う。

*認知症疾患医療センター運営実施要綱改正については以下の URL 285 ページ以降をご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000750940.pdf

Ⅱ. 認知症疾患医療センターにおける作業療法士の関与状況について

١.	頁	「施設の病床数、	作業獲	法法士	数につい	て教えてくれ	ころい。
(1)	病床数(施設全	体の病	床数、	うち精神	申科病床数)	
		施設全体:	床	₹、う	ち精神科	病床:	床
(2)	作業療法士数	(施設全	≧体)			
		常勤:	_名、非	常勤	:	名	

2. 貴施設の認知症疾患医療センターについて

2. 貝	心政の心心がたか	ではながら ファーに フいて
(1)	類型について、	あてはまるものを選択してください。
	□ 基幹型	
	□ 地域型	
	□ 診療所型	

(2) 認知症疾患医療センターの配置職員数(専従、専任)を教えてください。

職種	専 従	専 任
医師	名	名
保健師/看護師	名	名
精神保健福祉士	名	名
社会福祉士	名	名
臨床心理技術者	名	名
作業療法士	名	名
理学療法士	名	名
事務職員	名	名
その他(名	名

3. 認知症疾患医療センターにおける「専門的医療機能」として診療報酬への作業療法士の関与状況

ーロメモ

認知症疾患医療センターには、①専門的医療機能(鑑別診断とそれに基づく初期対応、周辺症状と身体合併症への急性期対応、専門医療相談)、②地域連携拠点機能(協議会の設置と研修会の開催)、③診断後等支援機能(診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援、当事者等によるピア活動や交流会の開催)がある。

- (1)認知症疾患医療センター業務に関連する診療報酬について、作業療法士が関与しているものがあれば、該当するものをすべて選択してください。
 - □ <u>「認知症専門診断管理料 1, 2」</u>の算定にあたり、認知症療養計画書における生活機能項目の評価等を担っている
 - □ <u>「認知症療養指導料」</u>の算定にあたり、認知症療養計画書の再作成における生活機能項目の評価 等を担っている
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、診断後の患者に対する<u>「精神科在宅</u> <u>患者支援管理料」</u>を算定している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、診断後の患者に対する<u>「精神科訪問</u> 看護指導料」を算定している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、診断後の患者に対し、<u>外来の精神科</u>作業療法を提供し、診療報酬を算定している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、診断後の患者に対し、<u>入院の精神科</u> 作業療法を提供し、診療報酬を算定している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、「<u>認知症リハビリテーション料」</u>を 算定している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する認知症専門治療病棟において、<u>「認知症専門治療病</u> 棟入院料」を算定し、生活機能訓練を実施している
 - □ 認知症疾患医療センターと連携し、併設する施設において、「<u>在宅訪問リハビリテーション指導</u> 管理料」を算定している
 - □ その他 ()
 - □ 特に関わりはない →4へ

(2)(1)で生活機能項目の評価を実施している方は、活用しているバッテリー全てを選択し、評価を 行うタイミング、頻度についてご記載ください。 ① 活用している評価バッテリー <全般的評価尺度> □ 国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health ; ICF) 🗆 地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート (Dementia Assessment Sheet for Community-based Intergrated Care System ; DASC-21) <心身機能> ☐ Mini Mental State Examination (MMSE) □ 改訂 長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R) ☐ Dementia Behavior Disturbance Scale (DBD) ☐ Vitality Index (VI) ☐ Frontal Assessment Battery (FAB) □ 老年期うつ病評価尺度 (GDS) ☐ Neuro psychiatric Inventory (NPI) □ N 式老年者用精神状態尺度 (NM スケール) <活動と参加> □ 認知症高齢者の日常生活自立度 □ 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) ☐ Functional Assessment Staging (FAST) ☐ Clinical Dementia Rating (CDR) □ N 式老年者用日常生活動作能力評価尺度 (N-ADL) □ バーセル指数 (Barthel Index; BI) □ 機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure: FIM) ☐ Physical Self-Maintenance Scale (PSMS) □ Disability Assessment for Dementia (DAD または短縮版 DBD-13 を含む) ☐ Frenchay Activities Index (FAI) ☐ Instrumental Activities of Daily Living Scale (Lawton-IADL) □ 老研式活動能力指標 く環境因子> □ Zarit 介護負担尺度(J-ZBI または 短縮版 J-ZBI_8 を含む) <Quality of Life> ☐ Quality of Life-Alzheimer's Disease (QoL-AD) ☐ Dementia Quality of Life Instrument (D-QoL) ☐ Quality of Life for Dementia (QoL-D)

)

☐ Quality of Life in Late-Stage Dementia (QUALID)

<その他> □ (

2	評価を行うタイミング、頻度について、以下にご記載ください。
a ==	지선····································
	製知症疾患医療センターにおける業務にかかる作業療法士の関与状況 - 作業療法士は、認知病疾患医療 はいないによる による ときな 形態 変型器 されていませか
(1)	作業療法士は、認知症疾患医療センターに <u>どのような形態で配置</u> されていますか。 □ 診断後等支援のための相談員として専従で配置されている
	□ 診断後等支援のための相談員として兼務で配置されている □ 独身で東洋トレス配置されている
	□ 独自で専従として配置されている □ 独自で兼務で配置されている
	□ 配置はされていないが、業務によって関与している
	□ 作業療法士の配置・関与はない <mark>→Ⅲ以降をご回答ください</mark>
※ (1	 で配置もしくは業務によって関与していると回答した方は以下の設問にお答えください。
(2)	作業療法士は、認知症疾患医療センター等においてどのような業務に関与していますか。該当す
	る項目をすべて選択してください。
	□ 初診前の医療相談業務
	□ 診断後の認知症の人、家族、関係機関等に対する相談支援業務
	□ ピアサポート活動の実施
	□ 認知症疾患医療センターが主催する研修への参加・協力
	□ 地域の医療従事者にむけた研修の開催
	□ 地域の地域包括支援センター職員等への研修の開催
	□ 認知症患者の家族や地域住民等を対象とする研修会の開催
	□ 他の主体の実施する認知症医療に関する研修への協力
	□ 初期集中支援チームや地域包括支援センターとの専門医療相談における連絡調整
	□ 依頼に応じて関与している
	依頼内容:
	□ その他()
	作業療法士の認知症疾患医療センターへの具体的関与内容
	ic疾患医療センターにおいて、またはセンターが併設する施設において、作業療法士が取り組んで
	ものについてお答えください。
	<u>診断後等支援機能</u>
)【相談支援】を実施している方は、下記の設問にご回答ください。 <mark>実施なしの場合は2)へ</mark> -
	① よく相談を受ける手法について、該当する項目をすべて選択してください。
	□ 来院による対面
	ロ オンライン
	□ その他 (

(2) J	:く相談を受ける <u>相談元</u> について、該当する項目をすべて選択してください。
	本人
	家族
	かかりつけ医
	認知症サポート医
	一般病院の専門職
	介護支援専門員
	地域包括支援センター
	通所介護・訪問介護・訪問看護
	通所・訪問リハビリテーション
	グループホーム
	小規模多機能型事業所
	介護老人保健施設
	特別養護老人ホーム
	院内他科・他部署
	初期集中支援チーム
	警察・運転免許センター
	若年性認知症支援コーディネーター
	職場・ハローワーク・就労支援事業所
	市町村行政職員(地域支援推進員など)
	県行政職員(県担当部局・保健所・福祉事務所など)
	認知症コールセンター
	キャラバンメイト、サポーター、オレンジチューター等のボランティア
	その他 ()
3 t	く相談を受ける <u>相談内容</u> について、該当する項目をすべて選択してください。
	症状について
	薬について
	予後について
	日常生活動作に関する不安や困りごとについて
	日常生活における屋内外の環境調整について
	社会参加、就労について
	運転や屋外移動手段について
	関わり方、介護方法について
	家族のレスパイト、心理的支援について
	介護サービス等の制度や相談機関について
	権利擁護、経済的支援等の制度や相談機関について
	地域の資源について
	研修や連携構築にかかる場等の情報について
	その他 ()

該当する項目をすべて選択し、具体的取り組みについて記入してください。
<mark>実施なしの場合は(2)へ</mark>
□ 当事者として認知症について語る人の育成や派遣をしている。
□ 当事者同士の支援(ピアサポート)の場を開設・運営している。
□ 外部の当事者同士の支援(ピアサポート)の場と連携し、紹介や情報の共有をしている。
□ その他 ()
選択した項目について、具体的取組をご記載ください
(2) <u>地域連携拠点機能</u>
1)4. (2)で【研修会】開催に関与していると答えた方は、過去3年間に開催したものについて、
下記の設問にお答えください。
① 誰に対して研修を実施しましたか。(複数回答可)
□ かかりつけ医
□ 介護支援専門員等介護従事者
□ 看護職
□ 地域のコメディカル
□ 作業療法士
□ 地域包括支援センターを含む市町村等
□ 認知症の人と家族の会等
□ 一般住民
口その他(
② 具体的研修内容は何ですか。(複数回答可)
□ 認知症の診断と治療
□ 認知症者に対する周辺症状等への対応方法
口 認知症者の生活(ADL/IADL)への自立支援と対応方法
□ 認知症の人に対する作業療法
□ 事例検討会
ロ その他 ()

2)【診断後のピアサポートの場(カフェ等)での支援】を実施している方は、その<u>支援内容</u>について、

2)地域連携拠点機能推進のための会議体として、各疾患医療センターで実施している「認知症疾患
医療センター連携会議」および都道府県が実施している「認知症疾患医療連携協議会」に参加し
ていますか。
口 両会議に参加している
□ 各疾患医療センターで実施している「認知症疾患医療センター連携会議」に参加している
□ 都道府県が実施している「認知症疾患医療連携協議会」に参加している
口を加していない
6. 在宅訪問支援について
認知症疾患医療センターには「在宅訪問支援機能」が現在ないのですが、必要性から訪問支援を実施し
ている方は、下記の設問にご回答ください。 <mark>実施なしの場合はⅢへ</mark>
(1)よく行く <u>訪問先</u> について、該当する項目をすべて選択してください。
□ 自宅
□ 利用しているサービス提供先 (介護事業所等)
口 就労関係先
口 相談機関先(行先例:
□ 屋外・商店・図書館等、地域における活動の場(行先例:)
(2)訪問先でよく実施する <u>支援内容</u> について、該当する項目をすべて選択してください。
□ 診断後の日常生活が円滑に行えるよう、在宅内外の環境や ADL・IADL の動作を評価し、環
境整備や方法の支援・環境整備等を行っている。
□ 家族やケア提供者に、介護や関わり方の評価・指導を行っている。
□ 本人の望む活動や社会参加が継続できるよう支援を行っている。
□ 他の関係機関との情報共有カンファレンスを開催し、支援体制を整えている。
□ 就労関係先と連携し、働き方、関わり方、環境整備等の相談・助言を行っている。
□ その他()
Ⅲ.作業療法士の研修会への参加状況について
貴施設の作業療法士の、認知症に関する研修会への参加状況について、該当する項目をすべて選択
してください。
口都道府県が開催する「医療従事者向け認知症対応力向上研修」に参加している
□他団体が開催する認知症関連の研修会に参加している
□日本作業療法士協会や都道府県作業療法士会等が開催する認知症関連の研修会に参加して
いる
□その他(

Ⅳ. 作業療法士が実施している「地域への取り組み」について

作業療法士が実施している「地域への取り組み」について、該当するものをすべて選択し、具体的に 取り組みを記入してください。

ツ祖ので	記入してくたさい。	
【就労・決	活動の場、仕組みづくり支援】	
	認知症カフェなど認知症の方が集まる通いの場を開設している	
	商店街やお寺、図書館等と連携し、認知症の方が利用できる取り組みを実施している	
	地域のサロン等と連携して、認知症の方も参加できるように推進している	
	認知症の方の就労支援を、若年性認知症コーディネーター・就労支援施設・シルバー人	材セ
	ンター等と連携し実施している	
【住民啓	発支援】	
	キャラバンメイトとして、認知症サポーター・チームオレンジ等のボランティアを養	成し
	ている	
	小学校など学校教育と連携し、認知症の理解について推進している	
	自治会などと連携し、認知症の理解について推進している	
【行政・作	他機関との連携】	
	地域ケア会議に参加し、認知症の方が住みやすい地域づくりの提案をしている	
	市町村の依頼により、認知症初期集中支援チームに関与している	
	市町村の認知症予防事業に講師として派遣されている	
	家族会と連携した取り組みを行っている	
	その他(
具体的取締	組をご記載ください	
7 逐知症	上 記疾患医療センター業務への作業療法士の関与体制についての意見	
	いてお考えをお聞かせください。	
1 11010 2 1	0 C 10 17 C E 10 E 17 C C V 0	
1)作業項	寮法士が認知症疾患医療センター業務に関与することで、得られる利点は何だと考えます。	まか.
	るものをすべて選択してください。	, ,,
	認知症の相談支援において、地域で暮らす認知症の人と家族の診断後における在宅生	汪を
	継続するために、ADL・IADLや環境調整に対して、リハビリテーションの視点から助	
	一種がするために、ADL・TADL や環境調整に対して、サバビザナーフョンの抗点がら助 できる	ロ /3
	支援の場において、地域で暮らす認知症の人と家族の診断後における在宅生活を継続	する
		, y <i>'</i> Q
	ために、個別の生活行為や環境に焦点をあてた評価・マネジメントができる	

□ 支援の場において、BPSD や生活行為障害の要因に対し、ICF 等に基づいて全体像を把握し

□ 介護支援専門員等の多職種・多機関の地域連携において、生活を見る視点や環境調整につ

たうえで、種々の評価により個別の支援策を立案できる

	いての情報提供やプログラム提案ができる
	カフェや家族教室等の場において、活動等を用いて、当事者同士の支援(ピアサポート)の
	場をコーディネートできる
	本人が望む活動の継続に向けた支援ができる
	その他(
(2)作業	療法士が認知症疾患医療センターの業務に関与していく上で <u>課題と感じること</u> は何ですか。
該当す	るものをすべて選択してください。
	認知症疾患医療センターの配置職員として、実施要項に明記されていないため、配置要請
	がない、または希望しても配置されない
	診療報酬制度と結びついていないため、相談支援、訪問支援、カンファレンスや地域への
	訪問活動、家族の会への支援などに関与できない
	 臨床業務が優先されるため、相談支援、訪問支援、カンファレンスや地域活動、家族の会と
	の連携などに関与する時間がない
	外来・訪問等の診療報酬制度と結びついた支援・関与に限られるため、MCI などの認知症診
	断前の対象者に対するアプローチができない
	作業療法士の専門性や果たせる役割について、施設や職員の理解が進んでいない
	作業療法の部署内において、認知症疾患医療センターの役割や業務についての認知度が低
	l'
)その他(
	業療法士が認知症疾患医療センター業務により積極的に関われるようになるためのご意見や
アイ	イデアがあれば、教えてください。
VI. 認知:	
· - :	症疾患医療センターにおけるリハビリテーションに関する意見
	症疾患医療センターにおけるリハビリテーションに関する意見 患医療センターにおけるリハビリテーションについて、お考えやご意見、希望等がありまし
認知症疾	
認知症疾	患医療センターにおけるリハビリテーションについて、お考えやご意見、希望等がありまし
認知症疾	患医療センターにおけるリハビリテーションについて、お考えやご意見、希望等がありまし
認知症疾	患医療センターにおけるリハビリテーションについて、お考えやご意見、希望等がありまし

Ⅷ. 取り組み事例の提供について

本調査の結果とあわせ、認知症疾患医療センターにおける作業療法士の役割・取り組み例について日本老年精神医学会等の関係機関へ紹介することを予定しています。貴施設における役割・取り組み例を提供していただくことは可能ですか。

- □ 提供できる
- □ 提供できない

ご協力ありがとうございました。